

▶プログラム◀

1：自治体広報はようになったら「成功」なのか

- (1) 経営されるものとしての地域・交響としての地域から広報を考える
- (2) 行政の可視化とステークホルダーの行動変容
- (3) 行政サービス広報・政策広報・地域広報
- (4) 広聴から広報へーチャットボットは何ができる
- (5) その広報にはロジックがあるかーEBPMからみた広報

- (5) 行政の力を発揮する信頼確保のメディア活用
- (6) ソーシャル（みんな）の力が広報に共感をつくりだす
- (7) 行動を促せるメディアには必ずインセンティブがある
- (8) 肘をつつくことで情報を共有させる
ー「ナッジ」という発想
- (9) 広報をどう評価する。PDCAのまわしかた

2：自治体広報に活用できるメディア

ーメディアそれぞれの違いを

十分に理解して活用するためにー

- (1) マスメディアだけがメディアではない
ートリプルメディアからPESOメディアへ
- (2) ブルメディアとプッシュメディア
- (3) メディアの3層構造ーコンペア・コンテナ・コンテンツ
- (4) ソーシャルメディアの現在ー情報発信から情報活用へ

4：仕事をせずに成果を上げる

- (1) 仲間づくりこそが広報
- (2) 仲間を作り、スキルを上げる「花びらモデル」
- (3) 成長するためにSECIモデルを使いこなす
- (4) 行政メディアではない地域メディアを使いこなす

3：戦略的なメディア活用

ーあなたが期待する行動を

ムリなくムダなく実現させるー

- (1) メディア活用の前のメディア活用
ーなぜ、何をリサーチするのか
- (2) 広報における自治体と民間の違い
ー自治体だからこその取り組み
- (3) なぜ、その情報発信は取材報道されるのか、
シェアされるのか
- (4) セグメントとターゲティング
ー「刺さる」広報はどうして可能なのか

5：広報で危機に備える・

広報の危機に備える

- (1) 早期発見と明確な説明と今後の対応
- (2) 外見リスクにも備える
- (3) 情報発信力のあるファン（アドボケイツ）
を見つける・育てる
- (4) 「炭鉱のカナリヤ」と「ファイアファイター」
- (5) インフルエンサーの使い方ー炎上ではなく共感を

※マイク・カメラ機能のあるパソコンをご用意ください。

講師紹介

東海大学客員教授・合同会社公共コミュニケーション研究所代表 かわい たかよし 河井 孝仁 氏

博士（情報科学・名古屋大学）。静岡県企画部情報政策課等勤務後、2004年、財団法人 静岡総合研究機構へ。2005年、東海大学文学部広報メディア学科助教授、同教授を経て現職。専門分野は、行政広報論（自治体広報、シティプロモーション、地域ブランド、広報戦略）、地域情報論（地域メディア、地域マーケティング）、総務省地域情報化アドバイザー、総務省地域力創造アドバイザー、

日本広報協会広報アドバイザー、公共コミュニケーション学会会長理事など各種公職を歴任。

『「失敗」からひも解くシティプロモーションになが「成否」をわけたのか』、『「関係人口」創出で地域経済をうるおすシティプロモーション2.0』、『新・シティプロモーションで地域を変える』、『市民は行政と協働を創れるか』、『戦略的に成果を上げる！自治体広報のすごい仕掛け』など多数

※令和6年度より、FAXでのお申込は廃止いたしました。
下記URLよりお申込みください。

<https://www.noma.or.jp/seminar/tabid/138/Default.aspx>

NOMA 講座

検索

NOMA
NIPPON OMNI-MANAGEMENT ASSOCIATION